

# HI FROM SAGA

WINTER 2021 Vol.6

## はじめに

現在、コロナウイルスの感染拡大によってさまざまなイベントの開催ができていません。

佐賀大学でも、この1年間はオンライン形式の講義が中心でした。現在の世界全体でのコロナウイルス感染者数は約9600万人、日本全体では約35万人です。世界中で感染が拡大する中、私たちはコロナ禍で留学に来ることのできた留学生たちにオンラインでインタビューを行いました。

以下はインタビューの内容です！

**名前：ルリエさん**  
**出身国：エチオピア（東アフリカ）**



Q: 日本に来たのはいつですか？

A: 十月に来ました。東京で二週間隔離がありました。

Q: 隔離期間のホテル代は自費でしたか？

A: いいえ、<sup>(※)</sup>文部科学省から MEXT 奨学金をもらっていて、免除されました。

Q: 隔離生活はどうでしたか？

A: 少し退屈だったけど、苦ではなかったです。食べ物は、デリバリーで注文したり、ホテルの中にコンビニもあったので、そこに行って食べ物を買ったりできました。

Q: なぜ佐賀大学に留学したのですか？

A: 日本に来る前に、自分の研究を佐賀大学の指導教員の方と連絡を取り合っていたので、それで佐賀大学に来ることに決めました。佐賀大学は良い大学だと思います。少し小さいけど、留学生が多いです。佐賀の市街地も好きで、自転車よく散策しています。

Q: 現在は佐賀でどんな勉強していますか？

A: 今は研究生で、熱帯作物について勉強しています。

(※) MEXTと佐賀大学から滞在費等の支援がありました



オンラインインタビューの様子↑

Q: 佐賀での生活はどうですか？

A: 佐賀の生活は好きです。チューターや友達がとてもよくしてくれますね。まだ佐賀に来てすぐなのでこれを言うのは早いかもしれませんが、佐賀はとても素敵だと思います。でもまだ少し慣れが必要ですね。

Q: 佐賀大学生へのメッセージはありますか？

A: もっともっと日本人の友達を作って、異文化交流ができたらいいなと思います！  
それと今まで親切にしてくれた人たちに感謝の気持ちをここで伝えたいです。

コロナ禍において、普段できていたことが気軽にできなくなっていて、学生との交流もできず、みんなに会ってみたいという素直な声をお聞きすることができました。

本当におかしな世の中です。人に会えない、遠出ができない、みなさんもどかしい毎日を過ごしていますよね。留学生の皆さんも、家族も友達もない土地に一人に来て、厳しい毎日を過ごしているかもしれませんね。留学生とのオンラインイベントがあれば積極的に参加していきたいですね。

名前：ドンザラさん  
出身国：ブルキナファソ（西アフリカ）



Q：自己紹介をお願いします。

A：はい、私は西アフリカから来ました、ドンザラです。研究生（Ph.D）として佐賀大学にきました。11月10日に東京に着いて、2週間の隔離をする必要がありました。隔離の間はどこに行くこともできませんでした。11月25日に佐賀に来ました。

Q：隔離の間はどこに滞在して、その費用はどうされていきましたか？

A：JICAの施設に滞在しました。滞在費の支払いはしなくて大丈夫でした。

Q：自分の国でコロナの状況はどうですか？

A：まだ私とその国にいたときは、それほど悪くない状況でした。だけど、11月22日あたりに選挙があったので、危険な状況になりました。みんなが毎日顔を合わせるようになったり、投票するために多くの人が集まりました。それでコロナの状況が悪くなったと思います。私の考えでは、選挙が終わったし、政府が解決案を提案したので、すぐに状況は回復すると思います。

Q：どうして佐賀大学を選んだんですか？

A：佐賀は首都じゃなくて大都市でもないからです。私にとって、田舎に住む方が住みやすいし、友達もつくりやすいから、楽しい生活がおくれると思いました。私が佐賀大学に着く前に、指導教員の日野先生が前もって色々な準備を私のためにしてくれていて、私は恵まれていると思います。私は田舎に住むのが好きで、佐賀大学が第一志望でした。

Q：佐賀大学で何を勉強していますか？

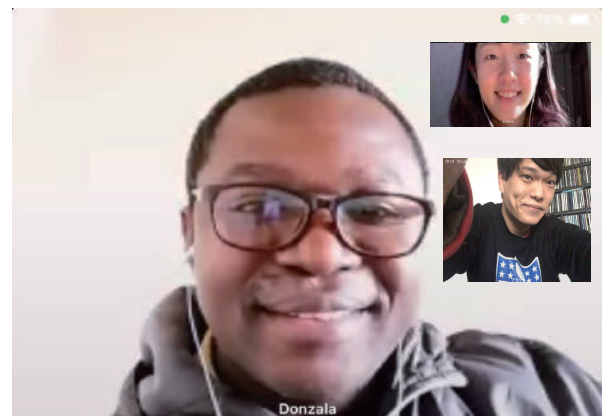
A：Ph. D 学生として、日野先生の研究室で土木工学を勉強する予定です。10月から古賀先生と日本語の勉強を始めていて、まだ上手ではないですがトライしています。

Q：佐賀での生活はhowですか？

A：佐賀は賑やかな街だと思います。佐賀での生活を楽しんでいます。新しい環境にも慣れてきて、マスクをつけることや人と距離を保つことが今では習慣になってきました。例えば、マスクをつけるのを忘れて外にでたときは、風が鼻に当たるからマスクをしてないことにすぐに気づいて、すぐに家に帰ってマスクをつけます。

インタビュー中には、佐賀の神社で授かったお守りを見せて下さり、佐賀での生活の様子を終始楽しそうに話してくださいました。知っている日本語を使って、コロナが落ち着いたら新幹線に乗ってみたいという話もしてくれました。

ドンザラさんの出身国であるブルキナファソは自然豊かな国です。ドンザラさんが滞在中に、佐賀、日本の自然にもたくさん触れることができることを願っています。



オンラインインタビューの様子↑



## 名前：エリオンさん 出身国：コソボ（ヨーロッパ）

Q：出身国について少し教えてください。どこ出身ですか？

A：私はコソボから来ました。コソボは東南ヨーロッパに位置するバルカン半島にある小さな国です。世界で最も設立して間もない国の一つで、2008年に設立されました。だからたったの13年の歴史しかないです。コソボ人の90%がアルバニア人で、アルバニア語を話します。人口はたったの200万人です。国のサイズについて、日本と比較してみたら岐阜県とコソボはほぼ同じサイズだということがわかりました。

Q：日本についたときに隔離をしましたか？

A：はい、実は私は去年の4月に日本に来る予定で、チケットも手に入れていて留学の準備がすべて整っていました。4月2日にコソボを出発して日本に来る予定でしたが、3月の中旬にヨーロッパ中が隔離を始め、すべてのヨーロッパから日本へのフライトがキャンセルされ、私のフライトもキャンセルされました。それからは毎月、日本の大使館からメールが届き、その内容はすべてのフライトはまだ使えませんということでした。7月に届いたメールには、10月まで待つ必要があると書かれていて、でもそれもまだ未確定でした。9月によく日本に渡航ができるというお知らせをもらいました。そのメールには2週間の隔離が義務付けられていることも書かれていました。日本について、公共交通機関を使う前に隔離をしなければならないということでしたので、東京で2週間隔離を行いました。

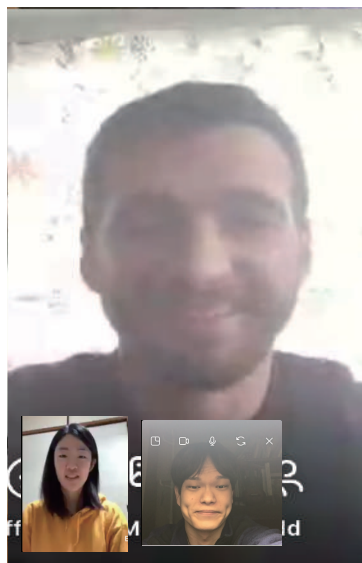
そのメールには2週間の隔離が義務付けられていることも書かれていました。日本について、公共交通機関を使う前に隔離をしなければならないということでしたので、東京で2週間隔離を行いました。

Q：何日に日本に来たのですか？

A：10月23日です。

Q：東京での隔離機関、滞在費などはどうされたのですか？

A：隔離の後にレシートが届いて、支払いをしなければいけませんでした。<sup>(※)</sup>最初に全てを手配してくれている会社がありました。食べ物については、私たちは外食することが許されていなかったため、コンビニの食べ物を買うかルームサービスを使用するかの2択でした。ルームサービスは高すぎたので、毎日コンビニの食べ物を食べていました。



オンラインインタビューの様子↑

Q：あなたの国でのコロナウイルスの状況はどうか。

A：けっこう悪いです。公式では、人口の約5%の人々が検査を受けて陽性だったことが判明しています。でも実際はもっと多くの感染者がいます。コロナの検査を受けられない人たちがいるからです。例えば、家族の中、2人くらい感染者がいて、その家族の他のメンバーにコロナの症状が出た場合、その人はコロナにかかっているだろうと考えられ、自主隔離をします。このように感染していることが明らかでない場合、検査の無駄になってしまうので、病院に行かず、自主隔離をします。だから人口の5%より多くの感染者がいると思っています。

Q：なぜ佐賀大学に行くことを選んだんですか？

A：大学を見て決めたのではなく、プログラムをみて決めました。そしたら佐賀大学のプログラムが自分にとってベストのプログラムだったので佐賀大学を選びました。

Q：佐賀大学で何を勉強していますか？

A：構造工学について研究しようとしています。

Q：佐賀での生活はどうか？

A：他の場所と比べて、コロナの感染数も少なく、営業しているところも多くてとてもいいと思います。他の場所はロックダウンしていると聞いたし、ここにいる人々はとても優しいです。

公開しているコロナ感染者数より実際は多くの感染者がコソボにはいるだろう、という非常に貴重なお話を聞くことができました。インターネットに載っている情報だけが真実ではないということ、改めて感じました。コソボが設立される前に戦争があったこともお聞きしました。日本にずっと住んでいたら想像もつかないような世界観を感じることができました。オンラインで会話、交流するだけでも様々な価値観に触れることができると今回のインタビューを通して実感しました。今の時代は、直接会って話すような機会を得ることは難しいですが、オンラインでの交流を図っていきたいですね。

(※) MEXTと佐賀大学から滞在費等の支援がありました

名前：イエンさん  
出身国：ベトナム（東南アジア）



Q：自己紹介をお願いします！

A：イエンといいます。佐賀大学教育学部で日本語を勉強しています。佐賀には1年間滞在します。

Q：いつ来日したのですか？

A：去年の10月に東京に着きました。二週間の隔離を経て佐賀へ来ました。

Q：隔離期間の出費はご自分で？

A：文部科学省の奨学金 MEXT をもらっていて、隔離時のホテル代、食事代は免除されました。(※)

Q：ベトナムでコロナの状態は？

A：今はコロナの感染者は日本と比べても少ないです。昨日はたったの1人でした。

ベトナムは早くから外国人の入国を禁止しています。

Q：日本に初めて来たときの感想は？

A：ベトナムから日本に来たとき、日本は気温が低くて寒かったです。

Q：なぜ佐賀大学を選んだのですか？

A：佐賀大学に留学しているベトナムの先輩に紹介してもらい興味を持ちました。

先輩は博士号を取るために今も佐賀大学で勉強しています。

Q：日本語が上手ですが、日本語はどのくらい勉強しているのですか？

A：4年間勉強しています。

Q：日本語を勉強しようと思ったきっかけは？

A：小さい頃にドラえもんや名探偵コナンの漫画を読んだのがきっかけです！

日本語を勉強してから、日本のたくさんのがわかって好きになりました。



オンラインインタビューの様子↑

Q：将来の夢はありますか？

A：日本の会社で働きたいです。ベトナムで日本語を教えるたいとも思いますが、やはり日本の会社に就職して日本でたくさん経験を積んでみたいというのが一番やってみたいことです。

Q：佐賀の生活はhowですか？

今はコロナの影響で、対面授業をいまだに受けたことがなく、オンライン授業を受ける日々が続いていますので、ずっと家にいます。外に出るのもなるべく自粛しています。でも書類の申請や、図書館での勉強など、キャンパス内にはよく行っています。

冬休みに、平和公園と、原爆資料館、中華街を訪れに長崎に旅行に行きました。そこでたくさん中華料理を食べました。

Q：ご出身のハノイと比べて佐賀はどうですか？

A：ハノイはベトナムの首都なので、佐賀と違ってとても賑やかです。

Q：イエンさんは、都会と田舎、どちらが好きですか？

A：勉強するんだったら、田舎がいいですね。だから佐賀が好きです。

都会は遊ぶときに便利だと思います。

Q：佐賀の一番好きなものはなんですか？

A：温泉です。嬉野か武雄かわかりませんが、山の上にある温泉に行きました。

Q：佐賀大学の学生にメッセージをどうぞ！

A：私は佐賀に来てからすでにたくさんのことを体験しました。自分自身成長出来るし、このインタビューなど、現地の学生との交流もたくさんできるので、皆さん、チャンスがあれば、ベトナムでもいいし、他の外国も訪れてみて、たくさん経験してみてください！今コロナで大変な状況ですが、皆さん遊びも勉強も頑張ってください！

とても流暢な日本語でインタビューに答えてくださいました。日本のアニメや漫画がベトナムの方にも気に入っていただけてうれしいですね。このコロナ禍でこうして一年の留学をスタートさせることができ、本当に幸運だと思います。日本の会社で就職するという夢もかなえられるように頑張ってほしいです。

(※) MEXTと佐賀大学から滞在費等の支援がありました



## 名前：ムストファさん 出身国：インドネシア(東南アジア)



Q：自己紹介をお願いします。

A：はい、私の名前はムストファです、インドネシアから来ました。今、修士課程で佐賀大学の電子工学を専攻しています。去年の7月に佐賀大学からの受け入れが決まって、10月に留学を始める予定でした。だけど不運にもコロナウイルスの影響でその期日に日本に来ることができませんでした。日本に来れたのは、11月でした。

Q：隔離の間どこで過ごして費用はどうしましたか？

A：成田についてからそこで2週間隔離をしました。MEXTからの奨学金が飛行機のチケットや隔離のホテル費用を補ってくれました。食べ物や成田から佐賀への飛行機代は自費でした。空港での手続きが6時間かかったのはとても大変でした。それから、私はムスリムなので食事に制限があって、隔離期間はけっこうきつかったです。食べ物はホテルのコンビニから買うことしかできなかったのですが、2種類の弁当しか選択肢がありませんでした。この2週間はつらかったです。

Q：自国でのコロナ状況はどうですか？

A：インドネシアの状況は日本に比べてはるかに悪いです。私たちの生活にかなり影響を与えています。日本に来る前、インドネシアのある大学で先生として働いていましたが、コロナの影響で仕事を続けられなくなって、3月に退職しなければいけませんでした。だから3月から11月まで何もすることがなくて、日本に移動できる日をただ待っていました。

Q：どうして佐賀大学だったんですか？

A：2017年にSPACE-Eの学生として1年間佐賀大学にいました。また佐賀に来たかったからです！

Q：佐賀で何を学んでいますか？

A：電子工学を勉強していて、田中先生の研究室で特にソーラーパネルについて学んでいます。

Q：佐賀での生活はどうか？

A：ここで住むのに慣れてきたけど、私が日本に着いたときに気温が低かったことにびっくりしました。インドネシアでは30℃だった気温が、日本にきて急に9℃になったので、とても寒く感じました。インドネシアではめったに寒くなりません。

Q：あなたにとって2度目の佐賀ですが、佐賀のどんなところが一番好きですか？

A：2017年に佐賀に初めて来たとき、日本の文化や習慣のことを全く知りませんでした。だけど日本語や佐賀について学ぶにつれて、佐賀のことが大好きになりました。だからインドネシアに帰った後、いつも佐賀に帰りたくて願っていました。

Q：大都市に住むより小さい街のほうが住みやすいですか？

A：わからないけど、勉強の目的で佐賀に住むことは快適だということはわかりました。佐賀は人で混んでいないから勉強に集中できて、学生には良い環境だと思います。それに佐賀は福岡に近いから友達とでかけやすいです。佐賀からどこにでもアクセスできるから佐賀に住むことは便利だと言えると思います。

Q：佐賀大学の学生に何かメッセージはありますか？

A：コロナウイルスにかからないように気を付けて！このような状況では友達をつくるのも大変だから留学生と日本人学生が知り合えるようなイベントが開催されることを願っています。

二週間ずっと同じ2種類の弁当を食べなくてはならないことは、想像しただけでもとてもつらいですね。大変な状況を乗り越えてスタートできた留学、これから素晴らしい経験がたくさんできることを願っています。



オンラインインタビューの様子↑

(※) MEXTと佐賀大学から滞在費等の支援がありました

## 終わりに

インタビューはこれで以上です。今回5人の留学生の方から貴重なお話をお伺いすることができました。コロナ禍の中、自国を出国すること、日本に入国すること、隔離期間、また現在の生活も様々な大変なことがある中で、こうしてインタビューに答えて下さって感謝しています。最近では、以前できていたことの10000分の1くらいの選択肢しかないような毎日ですが、うまく息抜きをして耐えていきたいですね。

国内感染者数は、去年11月半ばあたりから新規感染の増えるスピードが増し、クリスマスの25日には3827人の新規感染者数となっています。それから年末年始にかけても急速に新規感染が増え、1月8日が最多の7882人の感染者数が出ていますね。政府が1月7日に11都道府県に研究事態宣言を出しました。その策が講じて、1月9日以降の新規感染者数は減少傾向です。インターネットには様々な情報があふれていて、情報の取捨選択も難しいですよ。また、どの行動が良いのか、どの基準から許されないのかも人それぞれですよ、自分で考えて判断しなくてはならない時代ですね。みんな何かを我慢して生活しているかもしれません。せめて周りの人たちにやさしく接して、みんなでこの状況を乗り越えていきたいですね。

今回の記者は日本人学生2人でした。2人とも今頃は、海外で留学をしている予定でしたが、中止と延期になっています。

### 編集

松本陽美、先進健康科学研究科一年

中島暁月、芸術地域デザイン学部芸術表現コース三年

高田章太朗、経済学部経済学科一年

### インタビュー協力

ルリエさん、ドンザラさん、エルヨンさん、イエンさん、ムストファさん

### 英訳の協力

トミ・ヴィルヤネン

